

1. プログラムの目的と特徴

日本精神神経学会認定精神科専門医、精神保健指定医のいずれかを取得済の精神科医を対象としたステップアップのためのプログラムである。

本コースでは上級専門修練医として、専門性の高い臨床実践・教育・研究活動に従事する。

以下にあげるような知識の習得および経験を積むことができる。研修期間は原則2年であるが状況に応じて延長することもできる。



精神診療部長 野田隆政

本プログラムでは、病棟・外来を中心とした臨床に加えて、個別専門領域について、以下に挙げるような研修環境を提供できる。そして、連携大学院に入学して社会人大学院生として医学博士を取得することも可能である。

① 高度な専門領域の知識・経験の修得

専門外来(統合失調症、気分障害、薬物依存、認知症・器質性精神障害、てんかん、睡眠障害、ECT、rTMS)、およびこれに連携する病棟で研修を行い、臨床経験を積むとともに臨床研究に参加する

② 精神科リハビリテーション/デイケアの経験

精神科デイケアで、SST(social skill training)、疾病教育、認知リハビリテーション、および就労支援などの臨床経験を積む

③ 認知症など脳器質性精神障害の神経病理学的診断の経験

認知症など脳器質性精神障害について、脳画像診断の基盤である脳の肉眼および組織病理学を含む病態を学ぶ

神経病理部門はブレインバンクを運営している。精神疾患の剖検例のCPCなどを通して精神疾患の神経病理学的背景について学ぶ

④ 放射線診療部との連携

わが国で最高水準の脳画像診断を行っている放射線診療部において画像診断を学ぶ

⑤ 臨床検査部との連携

睡眠障害センターと連携し、睡眠障害の検査・診断・治療について最新の知識を学ぶ
NIRS、EEG および MEG 検査所見判読を学ぶ

⑥ 脳神経内科・脳神経小児科・脳神経外科との連携

高度専門的医療を行っている当院脳神経内科・脳神経小児科・脳神経外科と連携し、てんかんや神経変性疾患(パーキンソン病)などに併存する精神障害のコンサルテーションの経験を積む。

⑦ 精神保健研究所・神経研究所との連携:

精神保健研究所と神経研究所の研究会などに参加する。特に興味を持つ領域につい

ては、当該領域を研究している研究所スタッフの指導を受けることができる

⑧臨床研究の基礎的技法の修得

精神診療部では特定臨床研究、先進医療 B など臨床研究が盛んである。診療研究に参加することで研究アイデアからプロトコル作成、実際の運用まで学び、NCNP 内で実施されている臨床研究に研究協力者として参加する

⑨認知リハビリテーションの習得

精神疾患における認知機能障害の治療として注目されている認知リハビリテーションに関してその適応、手法を学ぶ

⑩ニューロモデュレーション療法の習得

ニューロモデュレーション療法に関して、適応判断から実施手技に至るまでの実践的知識を学ぶ

2. 研修内容と到達目標

本コースでは、これまでに学んだ知識と経験の精度を高めるとともに、サブスペシャリティーを習得するなど、臨床力を上げるための研鑽を重ね、さらには臨床研究を通して論理的な考察を身につける。研修終了時にはサブスペシャリティーの基礎を習得し、臨床研究を自ら計画できることを到達目標とする。

本コース在籍中に連携大学院へ進学し学位取得することも可能である。なお、本コース終了後に病院の常勤医師として、または研究所で勤務することについてステップアップコース中の評価に応じて推薦する。

必修項目

- ① 上級医による指導のもと、入院および外来患者の主治医として、多職種スタッフと連携し、患者家族・関係者と協力しながら、鑑別診断と治療を行い、社会復帰を支援する
- ② 精神障害に合併する神経学的異常や神経疾患に合併した精神障害など精神・神経の複合障害に対するコンサルテーション・リエゾンを経験する
- ③ 精神科当直として当直診療業務を担当する
- ④ 上級医とともに研修医の指導にあたる

推奨項目

- ① 治験を含む臨床研究に分担医師、協力医師として参加し、臨床試験の実際と治験、先進医療等の新しい治療法の開発・承認に関わる知識と経験を広める
- ② 院内の研究会などに症例や研究を発表し、それをもとに院外の学会等で報告、論文・症例報告として学会誌等に投稿する
- ③ 精神・神経疾患研究開発費あるいは厚生労働科学研究等の臨床研究に研究協力者として参加し、あわせて国内外の研究会議に参加する
- ④ 各専門領域における知識と技能を習得し、臨床実践へと還元し、入院および外来診療における治療の質の向上を図る

教育行事

- ①クルズス:研修開始期に、精神科医療に必要な基本的事項について、日本精神神経学会専門医制度研修ガイドライン(総論)に沿い、専門医制度指導医が講義を行う
 - ②ケースカンファレンス
 - ③脳波判読会(てんかん以外)
 - ④レジデント抄読会
 - ⑤精神科セミナー、その他の医局研究会
 - ⑥臨床病理検討会(clinico-pathological conference, CPC)と病理解剖
 - ⑦認知行動療法研修会
- * 自身の研修内容や到達目標に応じて参加を推奨する

3. 指導医リスト

1) 理事長:

中込 和幸 東京大学 昭和 59 年卒

2) 精神診療部長:

野田 隆政 山梨医科大学 平成 13 年卒

3) 司法精神診療部長:

平林 直次 東京医科大学 昭和 61 年卒

4) 精神リハビリテーション部長:

吉村 直記 島根医科大学 平成 9 年卒

5) てんかん診療科部長:

谷口 豪 金沢大学 平成 12 年卒

6) 精神科医長

柏木 宏子 鹿児島大学 平成 16 年卒

7) 精神科医長:

大町 佳永 東京女子医科大学 平成 17 年卒

8) 精神科医長:

沖田 恭治 浜松医科大学 平成 19 年卒

9) 精神科医長

竹田 康二 順天堂大学 平成 21 年卒

10) 臨床検査部医長

松井 健太郎

東北大学 平成 21 年卒

11) 精神科医長:

林 大祐

山梨大学 平成 22 年卒

ほか医員 7 名